

鈴木有郷牧師 説教

8/2/09 「パンだけでは足りない」 マタイによる福音書 4:1-4

「人はパンだけで生きるのではない。」これは、石をパンに変えてみよというサタンの誘惑を拒絶した時のイエスの言葉です。

パンとは食べ物一般を意味する言葉です。主イエスは食べ物のことなど大した問題ではない、と言っておられるのではないのです。

当時の一般の人々の食べものといえば、せいぜい種無しのパンが数切れと干し魚、いちじくの実、それに質の悪い葡萄酒というところでした。ですから、多くの人達は、栄養失調寸前の状態にいたと思われます。食べ物が大切ではないなどとイエスが言われる筈はありません。

主イエスご自身、貧困がもたらすひもじさと無縁ではありませんでした。父ヨセフは主イエスが10代の頃に亡くなっていたと推測されます。福音書にマリアの名前は出て来ても、ヨセフの名前が全く登場しないからです。イエスには4人の弟がおり、すくなくとも二人の妹がいました。つまり、少年の頃から主イエスは大家族を、大工をしながら支えていたのです。食べ物が人間の生活にとっていかに大切なものであるかを彼が身にしみて感じていたことは間違いありません。

それでは「人はパンだけで生きるのではない」という言葉に、どのような意味が込められているのでしょうか。それは次のように要約できるでしょう。食べ物が自分の胃袋を満たすものとしてしか理解されない時、それは人間を養うどころか、搾取と抑圧と不正義の道具と化す、と。

サタンの誘惑、それは他人のことなどどうでもいい。とにかく自分の食欲を満たすことが先決だとする自己中心主義こそ世渡りの秘訣だという勧めです。

このサタンの主張に対してイエスは反論されています。「人はパンだけで生きるのではない。神の口から出る一つの言葉によって生きる。」

どういう意味でしょうか。パンは、他者と共有される時、分かち合われる時、神の御心に適うものとなる、つまり人間の人間らしさの糧となるということです。

この具体例を、主イエスが人々との食事を大切にされたという事実に見ることができます。イエスの時代において、公の場で食事を共にするというのは近い人々の間だけでなされる行為でした。男は男とだけ、知識人は知識人とだけ、裕福な人は裕福な人とだけ食事をするのであって、階級の異なる人、異民族の人、病気の人、女性等と食事を共にするという事は、当時の社会では、してはいけないことだったのです

しかし、主イエスは、社会的風習に逆らって、貧しい人と一緒にパンを割き、悪霊にとりつかれた人、重い皮膚病にかかった人、人々から忌み嫌われていた収税人達と嬉々として食卓を囲まれたのです。

つまり、主イエスは食べ物を相互補助と和解の道具として用いられたのです。

パンは、それだけでは人間の人間らしさに貢献しません。分かち合われることによって、共有されることによって、食べ物は愛と慈しみの媒介となるのです。

ロシアの文豪レオ・トルストイは、人類の歴史に残る文学だけでなく、興味深い寓話もいろいろ残しています。これはその中の一つです。

一人の男がこの地上での命を終え、天国に迎え入れられます。しかし彼は、神様に一つの不思議なお願いをします。天国に入れて頂く前に、地獄を一寸のぞいてみたい、というのです。

願いは適えられて、彼は地獄に行きます。地獄は何と食堂です。大きなテーブルに美味しそうな食べ物がたわわに置いてあります。しかしそれを囲む人々はやせ細り、怒りとフラストレーションの塊になっています。

目を凝らして良く見ると、彼等の肘からナイフとフォークがくりつけられているために、肘が曲がらないのです。それで取った食べ物を自分の口に運ぶことができません。彼等は一生懸命食べようとするのですが、できません。美味しい食べ物を前にして、彼等は大声で叫び、呪い、地団駄を踏んでいるのです。

これはかなわないと思った男は、急いで天国に戻ります。彼が見た天国は、地獄で見たのと同じ食堂です。美味しそうな料理がたくさんテーブルの上に盛られています。

そして、テーブルの回りを囲んだ人々は、地獄の人々と同じように肘を曲げることができません。ナイフとフォークが肘にくりつけられているからです。ただ地獄と違って、人々は健康そのものです。にこやかです。

男は目を凝らしてその原因を見極めます。原因はすぐ分かりました。天国の人々は、自分の取った食べ物を、前や横にいる人の口に持って行ってあげているのです。前や横にいる人から自分も与えられているのです。

トルストイの寓話の意味は明白です。パンはそれだけでは人間らしさの糧となりません。憎しみと搾取と不正義の原因となるのが精々です。しかし、パンが他者に向かって差し出される時、それは神の愛と慈しみの器となるのです。

主イエスは、パンを他者と分かち合うように私たちを説得しておられます。主イエスの名においてパンを分かち合うこと、これこそ私たちを本当に人間らしい人間へと誘う原動力です。生きる上での喜びです。力です。